

今世紀初頭のカプセル内視鏡とバルーン内視鏡の導入によって小腸への内視鏡的アプローチが可能となり、小腸疾患の存在診断は容易となったが、質的診断に苦慮することが少なくない。その背景に、小腸は上部消化管や大腸と比較して、腫瘍性病変の中で上皮性腫瘍に比べて粘膜下腫瘍の割合が高いこと、腫瘍性病変に比べて非腫瘍性病変の頻度が高いこと、などが挙げられる。本特集号「知っておきたい小腸疾患」は、小腸疾患診療における質的診断のスキルアップを目標として企画された。本特集号では、十二指腸を除く空腸・回腸の腫瘍性病変と非腫瘍性病変のそれぞれにおいて、鑑別診断の鍵となる疾患を、近年、新しい知見が得られつつある話題の疾患を含め、取り上げた。各疾患の病理組織学的所見と内視鏡所見に精通したい。

まず、序説の斉藤論文では、小腸疾患の分類と鑑別診断が総説としてまとめられた。腫瘍性病変と非腫瘍性病変に分類し、各疾患のX線・内視鏡診断におけるチェックポイントと読影手順が記載された。本序説を熟読のうえ、主題へと読み進めたい。

主題の八尾論文では、小腸疾患の分類と病理組織学的所見が概説された。疾患ごとに胃病変や大腸病変など他部位の同疾患との臨床病理組織学的な類似点・相違点が整理して記載されており、示唆に富む内容となっている。熟読したい。

岡論文では原発性小腸癌と転移性小腸腫瘍がまとめられた。特に、原発性小腸癌は他臓器転移や腹膜播種に伴う進行した状態で発見されることが多いことを指摘し、小腸癌の早期発見への取り組みと小腸癌の発生・発育進展の解明が急務であることを述べている。

嘉島論文では悪性リンパ腫症例の内視鏡所見とともに、悪性リンパ腫の小病変と良性リンパ濾胞過形成との鑑別におけるNBI拡大観察の有用性が示された。

蔵原論文では粘膜下腫瘍様隆起の形態を呈する腫瘍性・腫瘍様病変として9疾患11症例が提示され、各病変の形態的特徴と鑑別診断が概説された。

冬野論文では非特異性多発性小腸潰瘍症/CEASの臨床的特徴がまとめられた。Crohn病や腸管Behçet病などとの鑑別が問題となるが、終末回腸に病変が少ないことが鑑別点の一つであること、男性症例の場合、消化管外徴候の有無の確認が重要であることなどが述べられた。

梁井論文では、腸管Behçet病/単純性潰瘍18例が遡及的に検討され、18例全例に回盲部定型病変

と回腸潰瘍を認めたこと、5例で空腸病変を認めたこと、また、18例中3例でトリソミー8が検索され2例が陽性となったことなどが示された。トリソミー8関連を含めたさらなる検討を期待したい。

佐野論文ではCMV小腸炎の臨床的特徴が同大腸炎との比較を含め検討された。CMV小腸炎は、高度免疫不全の割合が高いこと、形態的には輪状潰瘍と不整形潰瘍が多く類円形潰瘍は少ないことなどが示された。特に地図状不整形潰瘍の内視鏡像が印象に残る。

武田論文ではセリアック病の臨床的特徴に関する知見がまとめられた。本邦報告例と欧米の報告例との差異を踏まえて、内視鏡診断と病理診断の重要性を論述しているが、特に生検病理標本の取り扱い、評価の仕方が詳述されており、勉強になった。

飯田論文では、家族性地中海熱(FMF)の小腸病変についての知見がまとめられた。FMF関連腸炎26例中17例(65.4%)で小腸病変が認められること、多彩な内視鏡所見を呈することなどが述べられた。同腸炎の調査研究に基づく統報を期待したい。

中村論文では小腸リンパ管拡張症の臨床的特徴が自験17例に基づいて述べられた。内視鏡所見から白色絨毛群と非白色絨毛群の2型に分類されること、両群は病理組織学的所見、治療への反応性が異なることが示された。

主題症例2論文は、いずれも稀少な疾患の症例報告である。齊藤らは、下痢を主訴に来院し空腸と大腸に潰瘍を認めたIgG4関連疾患を報告している。IgG4関連多臓器リンパ増殖症候群の疾患概念を理解したうえで読み進めたい。特に空腸・大腸潰瘍の内視鏡像が印象に残る。河野らはmonomorphic epitheliotropic intestinal T-cell lymphomaの2例を報告した。嚢状拡張した空腸の全周性潰瘍性病変を含むX線造影像が特に興味深い。

以上のように、本特集号では代表的な小腸疾患に関する最新知見が網羅された。小腸疾患は稀少疾患の集まりとも言え、質的診断は容易ではないが、まず、各疾患の臨床的特徴に精通しておくことが重要となろう。本特集号が、その一助となり、明日からの小腸疾患診療に役立つことを期待したい。

また、現在、小腸疾患に関して、大腸癌研究会「小腸悪性腫瘍プロジェクト研究」と厚生労働省「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」により、腫瘍性疾患と炎症性疾患のそれぞれにおいて、多施設での症例集積と病態解明が進行中である。成果を期待する。